



シンガポール

NCB 海外レポート

スマート・シティ「シンガポール」の都市風景⑤

～国民の台所、ホーカーセンター～

◇ 多国籍料理が集約する屋台街

- ・シンガポールにはホーカーセンターと呼ばれる屋台街が政府管轄の下、国内 114 箇所に設けられています。路上の屋台が乱立していた同国において、衛生管理を厳しくするために無許可の屋台を取り締まり、1ヶ所に集められたのが始まりとされています。
- ・ホーカーセンターの中には中華、マレー、インド料理などあらゆる国籍の屋台が集約されており、特に物価の高いシンガポール中心部においても 5～10\$ ドル（約 5～900 円）程度で食事を取ることができるため、国民にとって欠かせないものとなっています。
- ・ホーカーセンターは「シンガポールの多文化社会を反映し、都市の環境下で発展した独自の文化」であるとして、2020 年にユネスコの無形文化遺産に登録されました。
- ・価格が安価に抑えられているため、施設の外観/内装は非常に簡素かつ趣のあるものとなっていますが、中心部の高級オフィス街や研究施設が集まるエリアなど、国内のどのエリアにも立地しており、街中に溶け込んでいる点が非常に興味深いです。

◇ ホーカーセンターでも進むキャッシュレス決済

- ・注目すべき点として、営業している屋台のほとんどの店舗がキャッシュレス決済に対応しており、伝統的な食文化の中にもスマート・シティらしさが垣間見ることが挙げられます。
- ・従来キャッシュレス決済を推進していたシンガポール政府ですが、ホーカーセンター内の屋台事業者は高齢者が多く、普及にはしばらく時間がかかると見られていました。
- ・しかし、シンガポール政府が新型コロナウイルスの影響を受けた事業主のデジタルトランスフォーメーション促進を目的とした支援策を実施したことで、キャッシュレス決済が急速に普及しました。



ホーカーセンター内の様子



店頭キャッシュレス決済端末

2022 年 6 月 1 日作成

西日本シティ銀行シンガポール駐在員事務所